

第二章「聖霊との関係における3つの個別テーマ」の3番目のテーマは、「神のことばとスピリチュアル・ライフ」である。

この内容は、聖霊の働きの第五、「照明」に関する。

聖霊の照明とは、聖書に書かれた神のことばについて、信者の思考を照らして、その意味するところを理解させてくださる聖霊の働きである。

そこで、神のことばが、私たちのスピリチュアル・ライフにおいて、どのような位置づけにあるのか、について学ぶ。

□神のことばとスピリチュアル・ライフ

1. 神のことばを象徴するもの 14の象徴

(1) 金槌 (エレ 23 : 29)・・・人の頑なな心を砕く

わたしのことばは火のようではないか—主のことば—。岩を砕く金槌のようではないか。(エレ 23 : 29)

「火」は (13)

(2) 手術用のメス (ヘブ 4 : 12)・・・心の中の感情や思考を識別する、切り分ける

神のことばは生きていて、力があり、両刃 (もろは) の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。(ヘブ 4 : 12)

「剣」は (12)

(3) 鏡 (Ⅱコリ 3 : 18、ヤコブ 1 : 23~25)・・・人のありのままの状態を映し出して明らかにする

私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。(Ⅱコリ 3 : 18)

(直訳) 私たちはみな、**覆いを取り除かれた顔で**、**主の栄光を鏡の中に映すように見ながら**、**主と同じかたちに変えられていき**、**栄光から栄光へと** (栄光は消え去らない、栄光に包まれている) です。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。(Ⅱコリ 3 : 18)

・・・「覆いを取り除かれた顔」とは、16節の「人が主に立ち返るなら、いつでもその覆いは除かれます」とあるように、主に立ち返って霊的に新生した信者であることを指す。「鏡」は神のことばである。新生した自分の顔を鏡に映すとき、そこに見えるのは、「主の栄光」である。神のことばは、私たちを、完全にきよい、すでに神の子である、と教えている。この神のことばを信じるところから、私たちがそれにふさわしく変えられていく聖化の働きが始まる。「栄光」は消えない。「栄光から栄光へ」と私たちを変えてくださる、それは「御霊なる主の働き」である。

みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で眺める人のようです。眺めても、そこを離れると、自分がどのようであったのか、すぐに忘れてしまいます。しかし、**自由をもたらす完全な律法を一心に見つめて、それから離れない人は**、すぐに忘れる聞き手にはならず、実際に行う人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。(ヤコブ 1 : 23~25)

- (4) 洗盤 (出 30 : 17~21、詩 119 : 9、ヨハネ 15 : 3、エペソ 5 : 25~27)・・・汚れから洗い清める。これは聖化に関係する。

(洗盤とは、モーセの幕屋の前に置かれた青銅の器具で、たらいのような容器) 主はまた、モーセに告げられた。**洗いのために洗盤とその台を青銅で造り、それを会見の天幕と祭壇の間に置き、その中に水を入れよ。アロンとその子らは、そこで手と足を洗う。彼らが会見の天幕に入るときには水を浴びる。彼らが死ぬことのないようにするためである。また、彼らが、主への食物のささげ物を焼いて煙にする務めのために祭壇に近づくときにも、その手、その足を洗う。彼らが死ぬことのないようにするためである。これは、彼とその子孫にとって代々にわたる永遠の掟である。**(出 30 : 17~21)

どのようにして若い人は、自分の道を、**清く保つ**ことができるでしょうか。あなたのみことばのとおり、**道を守る**ことです。(詩 119 : 9)

あなたがたは、わたしがあなたがたに話した**ことばによって、すでにきよい**のです。(ヨハネ 15 : 3)

夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、**みことばにより、水の洗いを**もって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自分で、しみや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。(エペソ 5 : 25~27)

- (5) 種 (ルカ 8 : 11、I ペテ 1 : 23) : 信者は良い土壌、種が土壌の中に蒔かれるように、みことばが信者の心の中にとどまる。この種は良き働きをするための種。信者が神のことばの命じるとおりに従っていこうと応答するとき、良き行いとなって現れる。

このたとえの意味はこうです。**種は神のことば**です。・・・良い地に落ちたものとは、こういう人たちのことです。彼らは立派な良い心で**みことば**を聞いて、それをしっかり守り、忍耐して実を結びます。(ルカ 8 : 11~15)

あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からでなく**朽ちない種**からであり、生きた、いつまでも残る、**神のことば**によるのです。「人はみな草のよう。その栄えはみな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。しかし、**主のことば**は永遠に立つ。」とあるからです。これが、あなたがたに福音として宣べ伝えられたことばです。(I ペテロ 1 : 23~25)

- (6) 太陽 (詩 19 : 1~6)・・・太陽は、信者の心の中に蒔かれた種が成長できるように働く。この太陽もまた、神のみことばである。

天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。

昼は昼へ話を伝え、夜は夜へ知識を示す。

話しもせず、語りもせず、その声も聞こえない。

しかし、その光芒は全地に、そのことばは世界の果てまで届いた。

神は天に、太陽のために幕屋を設けられた。

花婿のように、太陽は部屋から出て、勇士のように、走路を喜び走る。

天の果てから、それは昇り、天の果てまで、それは巡る。

その熱から、隠れ得るものは何もない。(詩 19 : 1~6)

- (7) 雨と雪 (イザヤ 55 : 10~11) . . . 信者の心の中に蒔かれた種が芽を出し、成長していくように働く。この雨や雪もまた、神のみことばである。

雨や雪は、天から降って、もとに戻らず、地を潤して物を生えさせ、

芽を出させて、種蒔く人に種を与え、食べる人にパンを与える。

そのように、わたしの口から出るわたしのことばも

わたしのところに、空しく帰って来ることはない。

それは、わたしが望むことを成し遂げ、

わたしが言い送ったことを成功させる。(イザヤ 55 : 10~11)

- (8) 食べ物 (ヨブ 23 : 12) . . . 3つの種類がある

① 乳 (I コリ 3 : 2、ヘブル 5 : 12~13) . . . キリストにある幼子のため

② パン、穀物 (申命記 8 : 3、イザヤ 55 : 1~2) . . . 成人した信者のため

③ 固い食物 (I コリ 3 : 2、ヘブル 5 : 12~14) . . . 十分に成長した信者のため

- (9) 蜂蜜 (詩 19 : 10) . . . 神のことばの甘さを強調する

それらは金よりも、多くの純金よりも慕わしく

蜜よりも、蜜蜂の巣の滴りよりも甘い。(詩 19 : 10)

- (10) 金 (詩 19 : 10、119 : 72) . . . 神のことばは、貧しき者 (信者) にとって富である

それらは金よりも、多くの純金よりも慕わしく

蜜よりも、蜜蜂の巣の滴りよりも甘い。(詩 19 : 10)

あなたの御口のみおしえは、私にとって、幾千もの金銀にまさります。(詩 119 : 72)

- (11) ランプ (詩 119 : 105、箴言 6 : 23、Ⅱペテ 1 : 19)・・・神のことばは、信者の歩みを照らす光である

あなたのみことばは、私の足の**ともしび**、私の道の**光**です。(詩 119 : 105)

命令は**ともしび**、おしえは**光**、訓戒のための叱責は、いのちの道であるからだ。(箴言 6 : 23)

- (12) 剣 (エペソ 6 : 17、ヘブル 4 : 12、黙 19 : 15)・・・神のことばは、霊的な戦いをするときのための武器である

救いのかぶとをかぶり、**御霊の剣**、すなわち神のことばを取りなさい。(エペソ 6 : 17)

神のことばは生きていて、力があり、**両刃(もろは)の剣よりも鋭く**、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。(ヘブ 4 : 12)

この方の口からは、諸国の民を打つための**鋭い剣**が出ていた。鉄の杖で彼らを牧するのは、この方である。(黙 19 : 15)

- (13) 火 (エレ 20 : 9、23 : 29)・・・信者をるつぼの中で精錬するときの火、神のことばにより信者は精錬され、不純物を除かれる

私が、「主のことばは**宣べ**伝えない。もう御名によっては語らない」と思っても、主のことばは私の心のうちで、骨の中に閉じ込められて、**燃えさかる火**のようになり、私は内にしまっておくのに耐えられません。もうできません。(エレ 20 : 9)

わたしの**ことばは火**のようではないか—主のことば—。岩を砕く**金槌**のようではないか。(エレ 23 : 29)

2. 神のことばとスピリチュアル・ライフとの関係 7つのこと

- (1) 種 (ルカ 8:11~15)・・・ここでは、特に福音の種である。人の心に中に蒔かれ、その人が信じると、その人には永遠のいのちが与えられる。

このたとえの意味はこうです。種は神のことばです。

道端に落ちたものとは、みことばを聞いても信じて救われないうちに、後で悪魔が来て、その心からみことばを取り去ってしまう、そのような人たちのことです。

岩の上に落ちたものとは、みことばを聞くと喜んで受け入れるのですが、根がないので、しばらくは信じていても試練のときに身を引いてしまう、そのような人たちのことです。

茨の中に落ちたものとは、こういう人たちのことです。彼らはみことばを聞いたのですが、時がたつにつれ、生活における思い煩いや、富や、快樂でふさがれて、実が熟すまでになりません。

しかし、良い地に落ちたものとは、こういう人たちのことです。彼らは立派な良い心でみことばを聞いて、それをしっかり守り、忍耐して実を結びます。(ルカ 8:11~15)

- (2) よって、福音の種は、聖霊の働きの第一、新生において、その道具である (ヨハ 15:3、Iペテ 1:23)

あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、すでにきよいのです。(ヨハネ 15:3)

あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からでなく朽ちない種からであり、生きた、いつまでも残る、神のことばによるのです。(Iペテロ 1:23)

- (3) 人は信じたときに、すべての罪から洗い清められる。神のことばは、その洗いの働きをする（詩 119 : 9、エペソ 5 : 26）

水浴した者は、足以外は洗う必要はありません。全身がきよいのです。（ヨハネ 13 : 10）

主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。（I コリ 6 : 11）

神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。（テトス 3 : 6）

夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自分で、しみや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。（エペソ 5 : 25～27）

- (4) 信者が神のことばの命令に応じた生活をしていくと、神の子のかたちに似せて日々変えられていく。これを聖化と呼ぶ。神のことばは、聖化の働きをする（ヨハネ 17 : 17）。

真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です。（ヨハネ 17 : 17）

- (5) 信者の霊的成長のために働くのは、神のことばである（ヘブル 5 : 13～14）

乳を飲んでいる者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。固い食物は、善と悪を見分ける感覚を経験によって訓練された大人のもので、（ヘブル 5 : 13～14）

- (6) 聖化を、「変えられていくこと」と呼ぶことがある。神のことばは、信者を変える働きをする（Ⅱコリ 3：18）。信者が神のことばに従っていくとき、それに応じて信者は変えられていく。

（直訳）私たちはみな、覆いを取り除かれた顔で、主の栄光を鏡の中に映すように見ながら、主と同じかたちに変えられていき、栄光から栄光へと、です。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。（Ⅱコリ 3：18）

「覆いを取り除かれた顔」、「栄光から栄光へと」などの意味については、Ⅱコリ 3章全体の文脈を見ると理解できる。古い契約に仕えたモーセは、消えゆく栄光を民に見せまいとして顔に覆いをかけた。それに対して、新しい契約を受け取った私たちには、主の栄光は消えることなく、さらに輝きを増して、私たちを主と同じかたちに変えてくださる。64 ページ、【参考資料】Ⅱコリ 3章 古い契約（モーセの律法）と 新しい契約 との対比 を参照。

- (7) 神のことばは、信者が神に仕えていくときの鍵となる。私たちが神に仕えるにはどのようにしたらよいのか、それを理解するためには、神のことばによらねばならない（Ⅱテモ 3：15～17）

聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。（Ⅱテモ 3：15～17）

- (8) まとめ：以上の 7 つの関係は、すべてにおいて、神のことばを読み、理解するところから出発する。その理解は、私たちの人間的理解ではなく、聖霊の照明による。

3. 信者の義務

(1) 第一の義務：神のことばを思い巡らし、深く考えること

- ① 瞑想し、何か上から降って来るのを待つこと、ではない。
- ② 私たちの思考を、神のことばに集中させ、聖書が教えるところを明確に理解しようとするのである。神のみことばに思考を集中させることが、私たちの生き方に影響する。
- ③ この勧めの箇所

ヨシュア 1 : 8 昼も夜もそれを口ずさめ。

詩 1 : 2 主のおしえを喜びとし 昼も夜も そのおしえを口ずさむ

詩 104 : 34 私の心の思いが みどころにかないますように。私は主を喜びます。

詩 119 : 11 私はあなたのみことばを心に蓄えます。あなたの前に罪ある者とならないように。

詩 119 : 15 私はあなたの戒めに思いを潜め あなたの道に私の目を留めます。

詩 119 : 97 どれほど私は あなたのみおしえを愛していることでしょうか。それがいつも 私の思いとなっています。

詩 119 : 99 私には 私のすべての師にまさる賢さがあります。あなたのさとしが私の思いだからです。

エレ 15 : 16 私はあなたのみことばが見つかったとき、それを食べました。そうして、あなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。

マタイ 4:4 イエスは答えられた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。」

ロマ 15:4 かつて書かれたものはすべて、私たちが教えるために書かれました。それは、聖書が与える忍耐と励ましによって、私たちが希望を持ち続けるためです。

ピリピ 4:8 最後に兄弟たち。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて評判の良いことに、また、何か徳とされることや称賛に値することがあれば、そのようなことに心を留めなさい。あなたがたが私から学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことを行いなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

・・・この文脈において、「すべて真実なこと」以下、「何か徳とされることや称賛に値すること」とは、旧約聖書の中に記されたことを指す。パウロは、異邦人でそれまでそのような事を知らなかったピリピの信者たちに、旧約聖書を教えた。

コロ 3:16~17 キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい。ことばであれ行いであれ、何かをするときには、主イエスによって父なる神に感謝し、すべてをイエスの名において行いなさい。

- ④ 考えるためには、学ばねばならない。聖書の学びは、信者のスピリチュアル・ライフにおいて不可欠である。
- ⑤ 神のことばを記憶すること・・・神のことばを思い巡らすためには、神のことばを記憶することが前提である。
- ⑥ よって、順序に沿って言えば、神のことばを学ぶ→記憶する→思い巡らす

- (2) 第二の義務：思い巡らして理解したみことばについて、そこで教えられたことを実践につなげること。これは、日々の義務である。

ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを素直に受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。みことばを行う人になりなさい。

自分を欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけません。みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で眺める人のようです。眺めても、そこを離れると、自分がどのようなようであったか、すぐに忘れてしまいます。

しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめて、それから離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならず、実際に行う人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。(ヤコブ 1：21～25)

この箇所のポイントは、学んだことと実践につなげることは、日々の義務であるということ、そして、ヤコブはここで特に、文法上、男性に対して言っている。家における霊的な長は、男性である。霊的な長として、この義務を果たしていく責任がある。

【参考資料】Ⅱコリ 3 章 古い契約（モーセの律法） と 新しい契約 との対比

- 1 私たちは、またもや自分を推薦しようとしているのでしょうか。
それとも、ある人々のように、あなたがたに宛てた推薦状とか、あなたがたからの推薦状とか、私たちには必要なのでしょうか。
- 2 私たちの推薦状は、あなたがたです。
それは、私たちの心に書き記されていて、すべての人に知られ、また読まれています。
- 3 あなたがたが、私たちの奉仕の結果としてのキリストの手紙であることは、明らかです。
それは、墨によってではなく、生ける神の御霊によって、石の板ではなく、人の心の板に書き記されたものです。

「墨によって、石の板に書き記されたもの」＝古い契約（モーセの律法）

「生ける神の御霊によって、人の心の板に書き記されたもの」＝新しい契約。その実体は、聖霊によって信者に与えられた新しい霊、新しい性質。

エレ 31 : 31 「見よ、その時代が来る一主のことば一。そのとき、わたしはイスラエルの家とユダの家と、新しい契約を結ぶ。その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破った一主のことば一。これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである一主のことば一。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」

ヨハネ 3 : 6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。

- 4 私たちはキリストによって、神の御前でこのような確信を抱いています。
- 5 何かを自分がなしたことだと考える資格は、私たち自身にはありません。
私たちの資格は、神から与えられるものです。
- 6 神は、私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。
文字に仕える者ではなく、霊に仕える者となる資格です。その文字は殺し、その霊は生かすからです。

「霊に仕える」、「その霊は生かす」・・・新改訳 2017 では「御霊に仕える、御霊は生かす」と訳されているが、最初の霊は、定冠詞なし・頭文字小文字の「霊」である。

パウロは、6節で、新しい契約に仕える＝霊に仕える、と述べている。霊とは、聖霊によって信者に与えられた新しい性質、新しい霊である。信者は罪の性質に従わず、新しい性質、霊に従って歩むことができる。

7 石の上に刻まれた文字による、死に仕える務めさえ、栄光を帯びたものでした。イスラエルの子らは、モーセの顔にあった消え去る栄光のために、モーセの顔を見つめることができないほどでした。

8 そうであれば、その霊に仕える務めは、もっと栄光を帯びたものとならないでしょうか。
9 罪に定める務めに栄光があるのなら、義とする務めは、なおいっそう栄光に満ちあふれます。

「その霊に仕える」・・・新改訳 2017 では「御霊に仕える」と訳されているが、原文は「その霊（定冠詞つき・頭文字大文字）」。6節の「霊に仕える」の「霊」を指す。

10 実はこの点において、かつては栄光を受けたものが、それよりさらにすぐれた栄光のゆえに、栄光のないものになっているのです。

11 消え去るべきものが栄光の中にあったのなら、永続するものは、なおのこと栄光に包まれているはずです。

12 このような望みを抱いているので、私たちはきわめて**大胆にふるまいます**。

13 モーセのようなことはしません。彼は消え去るものの最後をイスラエルの子らに見せないように、自分の顔に覆いを掛けました。

14 しかし、イスラエルの子らの理解は鈍くなりました。今日に至るまで、古い契約が朗読されるときには、同じ覆いが掛けられたままで、取りのけられていません。それは、キリストによって取り除かれるものだからです。

15 確かに今日まで、モーセの書が朗読されるときは、いつでも、彼らの心には覆いが掛かっています。

16 しかし、**人が主に立ち返るなら、いつでもその覆いは除かれます**。

17 主は御霊です。そして、**主の御霊がおられるところには自由があります**。

18 私たちはみな、**覆いを取り除かれた顔で、主の栄光を鏡の中に映すように見ながら、主と同じかたちに変えられていきます、栄光から栄光へと、です**（栄光は消え去らない、義認の栄光から、聖化の栄光へ）。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。